

2019.10.25 <計2枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

立命館大学国際平和ミュージアム 2019 年度秋季特別展
「上野誠版画展－『原爆の長崎』への道程－」開催

会期：2019 年 11 月 7 日（木）～12 月 18 日（水）

会場：立命館大学国際平和ミュージアム 1 階中野記念ホール

立命館大学国際平和ミュージアムは、下記の日程で、2019 年度秋季特別展「上野誠版画展－『原爆の長崎』への道程－」を開催いたします。

長野・川中島に生まれた上野誠(1909-80)は、「ヒロシマ三部作」(1959)、「原子野連作」(1968-76)など広島・長崎の原爆被害を描いた木版画家です。1931 年東京美術学校に入学しますが、1932 年に学内改革運動での検挙をきっかけに中退。その後、木版画を本格的に始め、労働者や女性の苦悩を描いたドイツの版画家であり彫刻家のケーテ・コルヴィッツの作品に強く影響を受けました。戦後は、新潟・六日町で農民や労働者をモチーフに制作を続け、1952 年に上京。1954 年、東京・上野駅で原水爆禁止を訴える広島の被爆者に出会い原爆被害を描くようになりました。1961 年には長崎を訪れ、被爆者から直接証言を聞き、同年 10 月から連作「原爆の長崎」に着手し、12 月には掌版シリーズ(小版習作)の制作も開始しました。国内外で作品を発表しながら、1970 年版画集『原爆の長崎』(新宿書房)を刊行しました。

本展では、彼が 1961 年から 62 年にかけて日記をつけるように制作した掌版シリーズと友人で版画家の景川弘道へ宛てた手紙を糸口に、非体験者である上野が被爆者の体験に向き合い作品に表現していく過程を辿ります。生誕 110 年にあたる本年、戦後復興の影で差別や貧困、後遺症に苦しむ被爆者の訴えを版に刻み続けた上野の反戦・平和へのメッセージを遺された作品を通して伝えます。

記

会 期：2019 年 11 月 7 日(木)～12 月 18 日(水)

開館時間：9:30～16:30(入館は 16:00 まで)

会 場：立命館大学国際平和ミュージアム 1 階中野記念ホール

休 館 日：日曜日

参 観 料：大人 400 円、中・高生 300 円、小学生 200 円

※20 名以上の団体は 50 円引き

※11 月 16 日(土)は関西文化の日のため無料公開

主 催：立命館大学国際平和ミュージアム

協 力：ひとミュージアム上野誠版画館(長野市)

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、NHK 京都放送局、KBS 京都、朝日新聞社、京都新聞、毎日新聞京都支局、読売新聞社

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学国際平和ミュージアム 担当:加藤

TEL. 075-465-8151 <http://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

【関連企画】

トークイベントⅠ「日本の加害責任を版画にした上野誠」

日 時 : 2019年11月9日(土)14:00~15:30

会 場 : 立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

登壇者 : 田島隆氏(ひとミュージアム上野誠版画館 館長)

※申込不要・参加費無料(本展および常設展の見学には別途参観料が必要です)

トークイベントⅡ「父・上野誠」

日 時 : 2019年11月16日(土)14:00~15:30

会 場 : 立命館大学国際平和ミュージアム 1階ロビー

登壇者 : 上野遼氏(版画家・ひとミュージアム上野誠版画館 副館長)

※後半は展示場に移動し、ギャラリートークを予定

※申込不要・参加費無料

※「関西文化の日」のため無料公開